幼稚園基本実習

—実習前と後との学生の意識変化について—

Basic Practicum in Kindergarten

— On Student's Attitude Change Before and After Practicum —

公　文　征　子
Masako KUMON

根　本　　攻
Osamu NEMOTO

中　山　千　章
Chiaki NAKAYAMA

岩　瀬　敏　子
Toshiko IWASE

Ⅰ．はじめに

本学における幼稚園の基本実習（以下実習と略す）は「幼稚園生活の概要や，教師と子どもの関わり方の理解」を主な目的※とし，入学して間もない6月中旬から12日間かけて行われる。協力していただく幼稚園からは，もっと充分な準備期間を踏まえてから実習に臨ませた方が良いのではないかという意見も出ているが，これには，学生に保育者になるための自覚を少しでも早く持たせるための意義がある。核家族化の進行，親族のつきあいや近所の子どもたちとの触れ合いの減少により，子育てに関する日常的な体験に乏しい学生が増加している昨今だが，実際に現場での経験を踏まえることは，保育に関する仕事への理解や，実習後の授業に対する意欲を一層向上させる効果があると思われる。

教育実習指導の授業では，常に時代背景に応じた柔軟かつ，より効果的な保育者の育成をはかる必要がある。その為には，これまでの指導方法の見直しも生じてくるであろう。

※なお，実習の概要と目的については，『教育・保育実習の手引き』の中で次のように明記されている。「幼稚園の生活の見学・観察を通して，一日の保育の流れをつかみ，幼稚園生活の概要を知る。また，教師と子どもの関わり方の実際を学び，理解する。なお，今回の幼稚園での実習体験を，より保育者としての理解を深めるとともに今後の学習意欲の向上に結びつける。」

Ⅱ．目的

先に記したとおり，日常から子育ての体験に乏しい傾向にある今日の学生は，単に「子どもが好き」という理由だけで，保育科に入学してくるケースが多い。

それ故に，初めての実習には，興味や関心から期待を膨らませる学生もいるが，大半は不安と緊張感を強く抱えているものである。実際の現場では，実習担当教諭から良い評価のみならず，厳しい注意や指導を受ける。また，問題に直面したとき，誰に相談し，どう対処すればよいのか，分からないことも多々発生すると思われる。

しかしながら，12日間の実習を体験することで，子どもたち一人ひとりの個性や成長の違いに応じた援助方法を理解できるようになると，「幼児教育の素晴らしさ」に気付き，「保育者になりたい」という意識も自然に高まってくるものなのである。

教育実習指導の授業では，多くの不安を抱く入学後間もない学生たちに，より有意義で実りある実習生活を送らせるため，わずか2ヶ月にも満たない短期間で適切な指導やアドバイスを施さなければならない。その為には，実際の現場における「苦労」や「喜び」などの声を，リアルな情報として授業に取り入れることも，効果的な手段の一つとして考えられよう。

本報告は，実習を経験した学生たちの，「実習に対する考え方」や，「学んだこと，感じたこと」，および，実習前後における「保育者という仕事に対しての意識の変化」などを質問紙を通して調

査・整理し，今後の教育実習指導の授業に活かすための基礎資料づくりを行い，知見を得ることを目的とする。

Ⅲ．方法

アンケート調査の対象は，一年次に実習を経験した学生のうち，賛同してくれた140名であり，それら全てを回収した。時期は，平成19年９月に実施。回答は，学生の考え方や意見を広く把握するため，特定の語群・選択肢を与えるのではなく，空欄へ自由に記述させる方式をとった。また，自由記述形式なので，各質問に対する回答（意見）の内容は，一人当たり複数におよぶことが多く，同時に無回答の場合も多かったので，統計的数値（百分率）を出すにあたっては，回答者140名に対する割合で算出した。

集計をする際には，回答（意見）の具体例を全て取り上げていくと，内容が多岐に渡り，全体の傾向が捉えにくくなるため，性格が似る回答を大まかに整理統合し，一つの項目を立ててまとめた。

例）質問１の場合，「実習前」と「実習後」に分類し「実習前」の具体例である「先生や子供のコミュニケーション」，「仕事の大変さ」，「教師の立場に立つこと」，などを不安視する意見は，全て「不安」という項目下に整理した。

なお，アンケートの質問は次のとおりである。

1．実習に行く前と，実習後の印象や考え方の違いについて書いてください。
2．実習をして幼稚園教諭になろうとする意識が強くなりましたか，弱くなりましたか。それとも変わりませんか。また，意識が変わった理由についても書いてください。
3．実習で，幼稚園教諭になるためにはどのような事が大切であると思いますか。またはそれについて指導されたことがあれば書いてください。
4．実習園で褒められたこと（例えば上手ね，素敵ね，頑張ったね）などがあれば書いてください。
5．実習園で叱られたことや，注意されたことがあれば書いてください。
6．実習前の授業でこんな指導を受けていれば良かったと思うことがあれば書いてください。
7．実習または，実習指導の授業において感じたこと，考えたこと，気付いたことなどがあれば書いてください。

Ⅳ．集計結果

1．実習前後の印象・考え方の相違

（質問：実習に行く前と，実習後の印象や考え方の違いについて書いてください。）

(1) 実習前

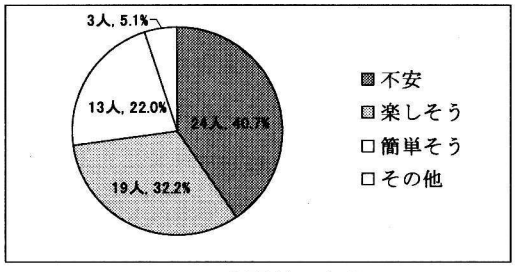

図１．実習前の意見

※140人中，59人の回答（42%）の回答があった（図１）。その内容をみると，約４割が「不安」を感じており，特に「先生と子どものコミュニケーション」を理由にあげている。また約３割が「楽しそう」という好奇心を示し，若干「簡単そう」と実習を軽視する意見もある（表１）。

表１．実習前の意見

回答内容	不安（24人）				楽しそう	簡単そう	その他	合計
	先生や子どもとのコミュニケーション	仕事の大変さ	教師の立場に立つ	その他				
回答数	18	3	1	2	19	13	3	59
割合	30.5%	5.1%	1.7%	3.4%	32.2%	22.0%	5.1%	100.0%
	40.7%							

(2) 実習後

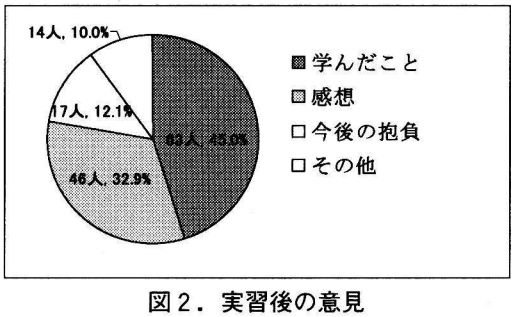

図２．実習後の意見

※140人（100%）の回答があった。内容をみると，多くが実習を通し「学んだこと」をあげており（図２），「指導に関する方法や知識」「実習生の姿勢」が重要視されている（表２）。また「大変な仕事だった」という率直な感想が全体の23.6%をしめ，「今後の抱負」も少なからずあげられている。これら回答については詳細を次ページに列挙する（表３～５）。

表２．実習後の意見

回答内容	学んだこと（63人）				感想（46人）		今後の抱負	その他	合計
	指導方法や知識	実習生の姿勢	子どもについて	その他	大変な仕事だった	充実していた			
回答数	28	19	9	7	33	13	17	14	140
割合	20.0%	13.6%	6.4%	5.0%	23.6%	9.3%	12.1%	10.0%	100.0%
	45.0%				32.9%				

表3．学んだこと

学んだこと	具体例	回答人数
指導方法や知識 28人	・目標を持ち遊ぶことが大切	10
	・年齢差による成長・発達の違いに応じた指導法	8
	・目配り・気配りの大切さ	7
	・自然との触れあいの大切さ	1
	・褒めることの大切さ	1
	・手助けせず見守ることの大切さ	1
実習生の姿勢 19人	・心身の健康が大切	18
	・失敗を恐れない積極性が必要	1
子どもについて 9人	・遊びながら基本的生活習慣や社会性を身につけて行く	5
	・実習生への関心が高い	2
	・大人を元気にしてくれる存在である	1
	・大人の行動を見ている	1
その他		7
合計		63

表4．一般的な感想

感想	理由	回答人数
大変な仕事だった 33人	・作業が多い	18
	・職員との人間関係	7
	・子供への指導 ‥大人数である	2
	‥懐かない	2
	‥手本にならねばならない	2
	‥気遣い	1
	・その他	1
充実していた 13人	・多くを学べた	5
	・楽しく過ごせた	4
	・園児の楽しみや安全配慮に夢中だった	3
	・別れが辛い	1
合計		46

表5．今後の抱負

	意見	回答人数
今後の抱負 17人	・頑張って保育者になりたい	14
	・幼稚園教諭への関心が高まった	1
	・ピアノを更に勉強しなければならない	1
	・子供に関する知識を更に深めたくなった	1
合計		17

2．幼稚園教諭への意識

（質問：実習をして幼稚園教諭になろうとする意識が強くなりましたか，弱くなりましたか，それとも変わりませんか。また，意識が変わった理由についても書いてください。）

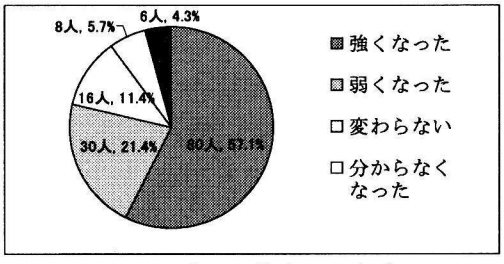

図３．幼稚園教諭への意識

※140人（100%）の回答があった。内容は，80人（約６割）が「強くなった」としており，主な理由は「園児との触れ合い」があげられている。また，30人（約２割）が「弱くなった」という消極的な意向を示し，「仕事が難しかった」「向いていない」という理由をあげている。「変わらない」「分からなくなった」という意見も若干見られる（図３，表６～７）。

表６．強くなった理由

回答内容	園児との触れ合いより	保育者への向上心意欲がわく	その他	具体的理由無し	合計
回答数	50	14	1	15	80
割合	62.5%	17.5%	1.3%	18.8%	100.0%

表７．弱くなった理由

回答内容	仕事が難しい	向いていない	その他	具体的理由無し	合計
回答数	13	11	5	1	30
割合	43.3%	36.7%	16.7%	3.3%	100.0%

3．幼稚園教諭になる為に大切だと感じられたこと

（質問：実習で幼稚園教諭になるためには，どのようなことが大切であると思いますか。または，それについて指導されたことがあれば書いてください。）

※「保育者の姿勢」，「子どもの理解」が半数以上の学生に重要視されている（表８）。詳細をみると，前者では「健康管理」，「母親のように振る舞うこと」，後者では，性格や心など「子どもの内面の理解」が多い（表９）。

表８．幼稚園教諭になる為に大切だと感じられたこと（複数自由回答，140人より193回答）

回答内容	保育者の姿勢	子どもの理解	クラスの理解	勉強	その他
回答数	86	71	17	14	5
／回答者数 140人	61.4%	50.7%	12.1%	10.0%	3.6%

※回答内容毎に示した%は，全実習者数140人に対する割合。複数回答を得ているので，その合計は140を越える。

表９．幼稚園教諭になる為に大切だと感じられたこと（詳細）

分類	大切なこと	回答人数
保育者の姿勢 86人	・健康管理	22
	・母親のように振る舞う	18
	・笑顔	10
	・子どもが好きである	7
	・行動力・忍耐力	5
	・冷静さ	3
	・素早い切り替えと発想	3
	・適切な対応	3
	・楽しむ	2
	・めりはりのある接し方	2
	・動揺を見せない	2
	・成長に応じた手助け	2
	・手本になる	2
	・思いやりの心	2
	・声の大きさや言葉づかい	1
	・名前を覚える	1
	・環境作り	1

分類	大切なこと	回答人数
子どもの理解 71人	・内面（性格や心）の理解	35
	・健康管理	12
	・注意とフォローのバランス	7
	・信頼関係	5
	・観察	3
	・意見を尊重	3
	・子どもを第一に考える	2
	・目線を合わせる	2
	・真剣に向き合う	1
	・子ども同士の触れ合い	1
クラスの理解 17人	・全体を把握して個々に対処	15
	・周囲の観察や気配りによる安全な生活の確保	2
勉強 14人	・ピアノや図工	10
	・先生方を見習った実体験	2
	・子どもに関する知識	1
	・平素の授業	1

４．実習中に褒められたこと

（質問：実習園で褒められたこと（例えば，上手ね，素敵ね，頑張ったね等）があれば書いてください。）

表10．実習中に褒められたこと（複数自由回答，140人より194回答）

回答内容	創意工夫	実習への取組	子どもへの対応	その他
回答数	69	68	55	2
／回答者数 140人	49.3%	48.6%	39.3%	1.4%

※回答内容毎に示した％は，全実習者数140人に対する割合。各人から複数回答を得ているので，その合計は140を越える。

表11．実習中に褒められたこと（詳細）

分類	褒められたこと	回答人数
創意工夫 69人	・紙芝居・絵本の読み聞かせ方	46
	・壁面・紙芝居作成方法	13
	・話しかけ・説明の仕方	6
	・ピアノが弾ける	3
	・お別れ会時のプレゼント	1
実習への取組 68人	・仕事に対する積極性	20
	・笑顔	19
	・早朝の環境整備	19
	・日誌の書き方	5
	・声が大きい	3
	・速やかな報告	1
	・名前を覚えるのが速い	1
子どもへの対応 55人	・元気に楽しく遊んでいた	27
	・積極性	17
	・接し方	7
	・子どもの目線に立っていた	3
	・声掛けができた	1

※「紙芝居や絵本の読み聞かせ方」を主とした「創意工夫」，「仕事に対する積極性」「早朝の環境整備」「笑顔」などの「実習への取組」が褒められたこととして多くあげられた（表10～11）。

5．実習中に注意されたこと

（質問：実習中に叱られたことや注意されたことがあれば書いてください。）

※「日誌の書き方」を主とした「実習への取組」，「甘やかし」「言葉づかい」「気配り」に関する「子どもへの接し方」が注意されたこととして多くあげられた。また，「丁寧な挨拶」「私語」などの「基本的な姿勢」も少なからず指摘されている（表12～13）。

表12．実習中に注意されたこと（複数自由回答，140人より131回答）

回答内容	実習への取組	子どもへの接し方	基本的な姿勢	指導法
回答数	52	47	24	8
／回答者数 140人	37.1%	33.6%	17.1%	5.7%

※回答内容毎に示した％は，全実習者数140人に対する割合。各人から複数回答を得ている。

表13．実習中に注意されたこと（詳細）

分類	注意されたこと	回答人数
実習への取組 52人	・日誌の書き方	28
	・積極性	12
	・分からない時は直ぐに尋ねる	3
	・掃除をしっかり	2
	・連絡・報告は完璧に	2
	・仕事は敏速に	2
	・多くの実習園で経験を積む	1
	・指導者の観察	1
	・声の大きさ	1
子どもへの接し方 47人	・甘やかしや手助け	11
	・言葉づかい（「ちゃん・くん」「しようね・してね」など）	10
	・全ての子どもに気を配る	9
	・叱れない	6
	・自信を持つ	5
	・目配り	2
	・緊張感を維持する	2
	・作業中の不用意な話しかけ	1
	・声掛け	1

分類	注意されたこと	回答人数
基本的な姿勢 24人	・丁寧な挨拶	8
	・私語	5
	・笑顔	4
	・身だしなみ	2
	・あぐらをかかない	2
	・出勤時間を守る	2
	・自身の体調管理	1
指導法 8人	・絵本・紙芝居の読み聞かせ	3
	・ピアノ	2
	・工作等の時間配分	1
	・手遊び	1
	・絵本の位置	1

6．事前に学んでおきたいこと

（質問：実習前の授業で，こんな指導を受けていれば良かったと思うことがあれば書いてください。）

表14．事前に学んでおきたいこと（複数自由回答，140人より109回答）

回答内容	指導方法	子どもへの接し方	日誌等の書き方	先生や保護者との関わり方	その他
回答数	73	12	10	7	7
／回答者数 140人	52.1%	8.6%	7.1%	5.0%	5.0%

※回答内容毎に示した％は，全実習者数140人に対する割合。各人から複数回答を得ている。

表15. 事前に学んでおきたいこと（詳細）

分類	事前に学んでおきたいこと	回答人数
指導方法	・絵本・紙芝居の読み聞かせ方	27
73人	・手遊び	26
	・ピアノや子どもの前で歌える歌	14
	・折り紙の折り方	2
	・年齢にあった絵本の選び方	1
	・劇・エプロンシアター	1
	・自閉症・教育相談について	1
	・保育の流れ	1
子どもへの	・泣いている子、喧嘩をしている子わがままな子への対処法	6
の接し方		
12人	・叱り方、声の掛け方	4
	・その他	2

※「指導方法」が半数をしめる。具体的には「絵本・紙芝居の読み聞かせ方」，「手遊び」が多い。この他，「泣いている子・喧嘩をしている子・わがままな子」の様に，特定の子どもへの接し方があげられた。また，前項の「注意されたこと」で多数上がった「日誌の書き方」も少なからずある（表14～15）。

7．その他，実習や授業について気づいたこと，感じたこと

（質問：実習または実習指導の授業において感じたこと，考えたこと，気づいたことなどがあれば書いてください。）

表16. その他，気づいたこと，感じたこと（複数自由回答，140人より69回答）

回答内容	実習の感想	授業について	子どもについて	子どもとの関わり方	その他
回答数	31	14	9	3	12
／回答者数 140人	22.1%	10.0%	6.4%	2.1%	8.6%

※回答内容毎に示した％は，全実習者数140人に対する割合。各人から複数回答を得ている。

表17. その他，気づいたこと，感じたこと（詳細）

分類	その他、気づいたこと、感じたこと	回答人数
実習の感想	・楽しかった（実践力となる）	12
31人	・実体験が重要	8
	・大変な仕事だ	6
	・クラス全員への性格を左右する責任重大な仕事	1
	・充実し勉強になった	1
	・一日の子どもへの関わり方が理解できた	1
	・幼児教育について考えさせられる	1
	・社会的知識、マナーが身に付いた	1
授業について	・大切さに気づいた	10
14人	・子どもたちへの接し方が役だった	1
	・実習の話をもっと聞かせて欲しい	1
	・先輩の体験談が聞けたら良い	1
	・言葉づかいの指導	1
子どもについて	・自分の考え（プライド）を持っている	2
9人	・先生の影響を受けながら育つ	2
	・素直な心を持っている	1
	・新しく興味を持ったことは何度でも繰り返す	1
	・年長組は、意見をはっきり言える	1
	・成長には個人差がある	1
	・4歳児は喧嘩が絶えない	1
子どもとの	・名前を覚えることの大切さ	1
関わり方	・声かけの大切さ	1
3人	・子どもとの触れ合いが大切	1
その他		12

※全体的にあまり多くの回答が得られなかった。「実習の感想」が約２割で最も多く，その詳細は「楽しかった」に次いで，「実際に体験することが重要」とする回答がウエイトを占めた。また，「授業の大切さに気づいた」とする回答もあった（表16～17）。

表中には示していないが「その他」には，「何も分からないまま実習へ行くことに疑問」「実習期間が長すぎる」などの消極的な意見が含まれる。

V．考察

1．実習前後の印象・考え方の相違

最初の質問である実習前と実習後の印象や考え方の相違については実習前と実習後との意見に分類した。

1－1　実習前について

実習前の意見は，「不安」が40.7%，「楽しそう」が32.2%，「簡単そう」，が22.0%であった。「不安」が最も多かったが，「楽しそう」と「簡単そう」を合わせると，54.2%であった。学生達は，実習に対して不安もあるが，保育科に入学したら当然実習があることを認識しているので，期待していた学生のほうが多かったともみてとれる。

「不安」の詳細に関しては，「先生や子どもとのコミュニケーション」が最も多かった。学生にとっては，初めての実習ということもあり，幼稚園の先生や子ども達とどのように接すれば良いのか，コミュニケーションをどう取ればいいのだろうか，といった不安であろう。学生の意見の中には「子どもたちをどのように指導するのか，指導教諭に何をどの様に聞けばよいのか，何も知らないと思われないか，等の怖さがあった」「どんなことをどの程度するのか見当がつかない不安と心配がある」「的外れな質問で注意されないか」等があった。

1－2　実習後について

実習後の意見は，「学んだこと」が最も多く45%で，つぎに「感想」が32.9%，「今後の抱負」が12.1%であった。項目「学んだこと」の詳細では「指導方法や知識」が一番多く，次に「実習生の姿勢」と続いた。「感想」の詳細については「大変な仕事だった」との回答が多く，「今後の抱負」の詳細では，「頑張って保育者になりたい」という回答が多かった。

項目「学んだこと」の詳細である「指導方法や知識」の具体例としては，「目標を持ち遊ぶことが大切」と「年齢差による成長・発達の違いに応じた指導法」との回答が多かった。これについては，実際に実習を始めて，単に子どもと遊ぶだけではなく，何のために目的（ねらい）や目標を持ち遊ぶのかという意義，また，子どもの成長度合いは，家庭環境や年齢（月齢）差などにより様々で，対処方法も皆違うことを認識した学生が多かったといえる。回答の中には「子どものできない事をしてあげるのではなく，自立できるようにサポートするのが保育者の仕事」，「目配り・気配りの大切さ」，と応えたものもあった。

また「実習生の姿勢」の具体例としては，「心身の健康が大切」という意見が多かった。これは，学生たちが実習終了時，予想以上に心身の疲労を体験したことにより，健康を保持することが最も重要である，と実感したと考えられる。

項目，「感想」における具体例の「大変な仕事だった」については，「作業が多い」と「職員と

の人間関係」と記述しているものが多かった。この「作業が多い」という意見は，実習前に抱いていたイメージでは，保育者の仕事は子どもと遊ぶことが大半を占める，と思っていたのが，実際には，子どもと関わる為に様々な作業があることに気付いた，ということであろう。「職員との人間関係」については，仕事の上で，どのように保育者とのコミュニケーションを図ればいいのか，という戸惑いとも考えられる。これは今時の学生の一般的傾向なのかもしれないが，TPO（その時と場の状況や雰囲気）に応じた適切な言葉使いが苦手であるという意識がそうさせているのかもしれない。

項目「今後の抱負」の具体例としては「頑張って保育者になりたい」という回答が多かった。これは，実習を体験して，希望の職種であった保育者の仕事について，ある程度理解できるようになったことにより，終了時には，保育に関する知識を深め幼児教育の道に進みたい，という意志が更に強まったと判断できる。

実習前と実習後の意見を概観すると，実習前は漠然と不安や期待を抱いていただけであった。しかし実習後は，多くを学び，想像以上に保育者の仕事は厳しく大変であることを理解した。反面，頑張って保育者になろうとする意識も高まったといえる。

2．幼稚園教諭への意識

質問２の幼稚園教諭への意識については，実習前より「強くなった」が57.1％を占め，「弱くなった」が21.4％，「変わらない」11.4％であった。これらのことから，時期的に早く実施されたにもかかわらず，実習経験が学生によい影響を与えたと理解できる。

「強くなった」理由の詳細では「園児との触れ合いにより」が最も多く，次いで「保育への向上心・意欲がわく」であった。これらの回答から，保育科の大多数の学生はもともと子どもが好きという理由で入学してきているので，12日間に渡り直接子どもと触れ合うことを経験したことで，保育者になりたいという意識がより強まった結果であると考えられる。

一方，弱くなったという回答も２割ほどあったが，詳細をみてみると「仕事が難しい」と「向いていない」との意見が多数を占めていた。「仕事が難しい」ということは，入学して間もない実習で準備期間が短かかったことから生じたものかも知れないし，「厳しい」イコール「難しい」との判断であったのかも知れない。例を挙げると「部分実習での失敗で落ち込んでしまい，自信をなくしてしまった」「自分には人を指導できるほどの力量が無い」「園児の目線に合わせることや，園児の考えに合わせるのが苦手である」などであった。「向いていない」という意見については，保育者になりたいというもともとの動機や積極性の不足から生じたのかも知れないが，今後の実習をなるべく支障なく進めるうえでも，更なる調査の必要性があると考えられる。

3．幼稚園教諭になるために大切だと感じられたこと

質問3の幼稚園教諭になるために大切だと感じられたことについては，回答数が複数回答で140人中193であった。項目別にみると，「保育者の姿勢」が61.4％で一番多く，次に「子どもの理解」50.7％，「クラスの理解」12.1％，そして「勉強」10.3％であった。「保育者の姿勢」というのは，保育者としての自分自身の健康管理に関することや，母親のように振舞うこと，笑顔，子どもが好きであること等であり，保育者として必要な心構え，知識・資質等を表している項目である。そのなかで，最も多かった回答は「健康管理」であり，次に多かったのは「母親のように振舞う」そして「笑顔」の順であった。保育者の姿勢の詳細で「健康管理」が一番多かったのは，体力的に厳しい職業であるということを体感したからであると考えられる。次に多かった「母親のように振舞う」というのは，思いやりや優しさを持って子どもと触れ合うこと，信頼関係を保つこと等を表している。これは幼稚園で子どもたちと接するには，保育技術以上に，子どもたちへ思いやりや共感の心，観察力が大切であるということである。実際，担当教諭から「叱る時も褒める時も，先生から掛ける言葉に愛情が有れば，必ず子どもの心に届きます」と指導を受けた学生もいた。詳細の「笑顔」については，保育者は，どんな時でも元気で笑顔で子どもに接するべきであることが，最も重要な資質であることは周知の通りである。

項目「子どもの理解」の詳細については，「内面（性格や心）の理解」と「健康管理」が多かった。「内面（性格や心）の理解」は，子どもの気持ちを理解し把握するには，心理面での理解を深めることが必要不可欠であることを表している。学生の解答例に次のように書いてあるものがあった。「30人の子どもがいれば，30通りの教育の仕方がある。一人ひとりをどれだけ深く理解できるかで，教育の仕方が変わってくる」。

「健康管理」については，幼稚園で一番神経を使う事は子どもたちの健康管理のことであると言っても過言ではない。保育者は，子どもたちの病気や怪我を防ぐために，常に気配り・目配りを心掛けている。登園時の視診から始まり，園生活の中での少しの変化でも目敏く感知し，適切な処置と保護者への連絡を密にしていることも，実習体験により理解できたようである。ある学生は，「具合の悪い子や新しい洋服を着てきた子，ご飯の食べ進み具合など，小さいことをしっかり確認することが大切である」との具体例を挙げている。

「クラスの理解」の詳細については「全体を把握して個人に対処する」であった。ベテランの先生としては当然のことなのだろうが，学生にとっては一部の子どもと関わっていると，つい周囲の状況把握を忘れ，自分から離れた場所にいる子ども達への目が届かなくて，注意を受けた学生もいた。周囲への気配りの重要性については，理解しているものの余裕なく実習しているので，指摘されて初めて気づいた，という回答もあった。「勉強」の項目の具体例では，「ピアノや図工」が大切である，との回答が多かった。子どもたちと直接向き合って実習したことで，ピアノを弾くことや図工の重要性を強く認識した，といえよう。

4．実習中に褒められたこと

質問4の実習中に褒められたことについては，自由回答であるので，学生数の140より多く194であった。項目別では「創意工夫」が49.3%，「実習への取組」は48.6%で，どちらもほとんど差がみられず「子どもへの対応」に関しても39.3%であった。項目の「創意工夫」は保育技術に関する内容を表しており，その詳細では「紙芝居･絵本の読み聞かせ方」が特に多く，次いで「壁面･紙芝居作成方法」が続いた。「紙芝居･絵本の読み聞かせ方」で褒められたとの回答が多かったのは，実習中，紙芝居や絵本の読み聞かせをする機会が多く，体験の積み重ねが評価に繋がったものと考えられる。

項目の「実習への取組」の詳細では，「仕事に対する積極性」，「笑顔」，「早朝の環境整備」で，褒められたとの回答があったが，これらの三つとも割合的にはほぼ同じであった。このことにより，学生達は実習中笑顔を絶やすことなく真面目に積極的に取り組んでいたことがうかがえる。

また項目「子どもへの対応」については，「元気に楽しく遊んでいた」と「積極性」の回答が多かった。これは，どちらも習熟した保育技術というものではなく，元来学生が持っている資質や個性を褒められたようである。逆にあまり褒められなかった具体例としては，「話しかけ･説明の仕方」，「ピアノが弾ける」，「日誌の書き方」，「子どもとの接し方」などが挙げられる。このような例は全て学習して身につける必要があるものであり，早い時期の実習による影響とも考えられるし，学生の資質に起因するとも考えられる。何れにせよ学生たちには，今後の課題として自覚し，学習に取り組んで行くよう指導しなければならない。

5．実習中に注意されたこと

質問5の実習中に注意されたことについては，回答数140名中131であった。

項目別では「実習への取組」が37.1%，「子どもの接し方」が33.6%で殆ど差がなかった。また「基本的な姿勢」については17.1%であった。

項目「実習への取組」の詳細で最も多かったのが「日誌の書き方」で，次に「積極性」であった。実習日誌の書き方については，実習が6月の初旬に始まるため，書き方の指導について，学生に取り組ませる時間的余裕がないことも事実であるが，前の質問4でも述べたように，学生の資質によるところも大きいと考えられる。また，日誌の書き方については，実習園によってもそれぞれ違いがあるので，学生が戸惑うことも度々である。「積極性」については，初めての実習でもあり，どのように子どもたちと取り組んだらよいか分からずにいることと，何事も指導教諭からの指示待ちの傾向にあることを指摘されたものと考えられる。学生のなかには，「仕事は自分で探して動くものです」「ボーッと立っていないで，どんどん子ども達の中に入って行って」と指導を受けた学生もいた。

項目「子どもへの接し方」で注意を受けたのは，「甘やかしや手助け」「言葉使い」「全ての子ど

もに気を配る」等であった。「甘やかしや手助け」については，保育科の学生は基本的に子どもが好きということもあり，つい必要以上に甘やかしたり，頼まれたこと等に対し，すぐに手助けしてしまう傾向があると考えられる。一例として「園児達ができないと言ってきたことを，何でも直ぐにやってあげるのではなく，できるように援助することが大切です」と指導された学生もいた。「言葉使い」については，学生言葉ではなく，実習生でも「子どもたちは先生と思っているのだから，先生らしくきちんと子どもたちに向き合って話しなさい」とか，「子どもたちの年齢も考慮して，特に，褒めるときや叱るときなどは，子どもの年齢を考慮した上で話すように」「見下すような話し方はしないように」などの指導を受けている。

「全ての子どもに気を配る」では，学生は，つい，多人数の子どもの動きにおわれ，行動の遅い子や自分から離れている子どもに気を配る余裕がなくなってしまい，子どもたち全体の状況に目が行き届かなくなってしまうのであろう。

「基本的な姿勢」の詳細については「丁寧な挨拶」ができないと注意を受けた学生が多かった。今までも，巡回指導時に実習先から指摘されたことだが，今日の学生は，丁寧な挨拶をするのが恥ずかしいのか，できない学生が増えてきているようである。挨拶は人間関係の基本であり，社会生活を円滑にするには必要不可欠であることは言うまでもない。それに欠けるということは，その人の性格や人柄を疑われても仕方がない，ということになる。挨拶を身に付けさせるには，普段から徹底的に習慣づけをする必要があると考えられる。

「指導法」という項目も立てておいたのだが，指導法について注意を受けた学生は5.7%で非常に少なかった。これについては，見学・観察が中心の実習であるため，幼稚園の先生方の配慮により注意を控えたたのかも知れない。もしくは，前に述べたような，実習への取り組み方や子どもの接し方，実習生としての姿勢など，沢山の課題を掲げていたため，指導に至らず終わってしまったのかもしれない。

6．事前に学んでおきたいこと

質問6の実習前に学んでおきたいことについては，140人中109の解答で「指導方法」が52.1%で圧倒的に多かった。次に多かったのは「子どもへの接し方」で，8.6%であった。「指導方法」の詳細については，「絵本・紙芝居の読み聞かせ方」，「手遊び」，「ピアノや子どもの前で歌える歌」などであった。実際に実習を経験したことにより，これらの保育技術の必要性を実感したのであろう。子どもの前に立って，何をしたらよいのか分からなくて，じっとしていたら，担当教諭から，「子どもたちに何かしてあげてといわれ困ってしまった学生もいた」との話も訪問指導時に聞いている。「指導方法」では，注意を受ける学生は少なかったのだが，学生自身が，手遊びや折り紙などの実践的なものを身に付けていなければ上手に指導していけないことを感じ取ったと理解できる。「子どもへの接し方」についての詳細は，少数ではあったけれど「泣いている子，喧

嘩をしている子，わがままな子への対処法」を学んでおきたかったという意見があった。この意見もやはり，保育現場で喧嘩をしている子どもたちを見て，止めるべきか，それとも，そのまま見守って，子どもたちで解決させたほうが良いのか，仲裁に入るとしたらどのタイミングで入れば良いのかなど，その場で適切な判断ができなかったことを実際に経験してみて，これらの知識の必要性を実感したと考えられる。

7．その他実習や授業について気づいたこと

質問7のその他，実習や授業について気付いたこと，感じたことについては，複数回答にもかかわらず回答数が69で，最も少なかった。質問が具体的でなかったので応えにくかったのかもしれない。そのなかで「実習の感想」が22.1％で最も多く，次に「授業について」で，10.0％，そして「子供について」6.4％であった。

「実習の感想」の詳細としては，「楽しかった（実践力となる）」や「実体験が重要」，「大変な仕事」などの意見があった。いずれも，実習の重要性の意義を認めるものであった。「楽しかった」という意見は子どもが好きで入学した保育科で，実際に子どもと触れ合うことができたという満足感であろうか。「実体験が重要」と「大変な仕事」については，実際に現場に立ち子どもと触れ合うことで，机上の学習では理解できない実習の重要性を，理解する意見である。そして，保育者の仕事は大変であることを実体験を通して理解したといえる。「授業について」の項目で多かった意見は「大切さに気づいた」であった。授業を通して，実習の大切さを認識していくのではなく，実習をしてみて，初めて授業の大切さに気付いたということになる。「子どもについて」の項目では，「自分の考え（プライド）を持っている」と「先生の影響を受けながら育つ」などの意見があった。子どもは子どもなりにプライドを持ち，決して小さな大人ではないことを理解したことと，子どもを教育するにあたっては，先生の影響が大であることを再認識したのであろう。

Ⅵ．まとめ

・実習前は，実習先の先生や子どもたちとの「コミュニケーションのとり方」を主とした不安が多かった。実習後は，子どもたちと過ごしながら学んだ「指導方法や知識」，「日々の体調管理の重要性」，「職員との人間関係」，「予想以上の作業の多さ」，など幼児教育の仕事の大変さを経験したけれども，多くの学生は，保育者になりたいという意識がますます強くなった，と応えている。

・幼稚園教諭になるためには，「自分自身の健康管理」，「母親のような温かい思いやりの気持ち，共感する心」，「観察力を身につけること」，「子どもの健康管理や子どもの心を理解すること」などが大切であると回答した学生が多かった。これらは，事前に何度も指導済であったため，実習現場で改めて認識し直したということになるであろう。

・褒められたことは，「紙芝居・絵本の読み聞かせ」や「壁面の製作」などの技術のほか，「笑顔」，「早朝の環境整備」，「積極性」などの基本的な姿勢であり，元気で明るく，快活な本学学生の長所が評価されたと言えよう。
・注意を受けたことは，「日誌の書き方」を主とした実習への取り組みに関することと，「甘やかしてしまう」，「上手な手助けができない」など，子どもへの接し方が多かった。日誌の書き方については，巡回指導時に実習先からもよく指摘されていることなので，今後，何とか抜本的な改善策を考えなければならない。子どもへの接し方については，経験から学ぶことであって，机上の学習によって改善することは難しい。
・実習前の授業で必要と思われる指導は，「絵本や紙芝居の読み聞かせ方」，「手遊び」，「子どもの前で歌える歌」などであった。これは，子どもたちの前に立って何かをしなければならないときに，実践的な保育技術を事前に多く身につけていれば役に立つと感じた学生が多かったということを示している。今後の指導にウエイトを置く必要があろう。
・その他，気付いたことについては，「楽しかった」「実践力になる」や「実体験が重要」，「普段の授業の大切さに気づいた」とする意見が見られた。

期待と不安を抱いて臨んだ12日間の実習経験により，学生たちは，褒められたり厳しい注意や指導を受けながら，保育・教育現場の仕事の大変さを認識した。また，保育者になるのに必要な多くの知識や技術を学んだことにより，自分の未熟さにも目を向けることができた。，更に，事前準備が不充分な状態であったにもかかわらず，園児との直接的なふれ合いを通して，保育者になろうとする意識がより高まった学生が多かったことは，この時期の実習が決して早すぎるということではなく，むしろ効果的であったことの証明さである。しかし，実習疲れや担任教諭からの注意などで，自分は保育者には向いていないのではないかと悩み，精神的にまいってしまう学生も若干見受けられる。これには実習指導の教員が支えとなり，適宜アドバイスを与え，無事に実習を終了できるよう努めなければならない。担当教員の連携と共通理解は勿論のこと，学生がいつでも安心して相談できるような環境づくりを進めていけば，抱える悩みや課題も少しづつ緩和されるであろう。そして，実習での失敗をポジティブにとらえ，学生達が保育者への道を積極的に前進できるようにして行きたい。